やさしい日本語で読む日本文学　レベル　中級

伊勢物語

いせものがたり

【簡約】安倍　菜々香
【挿絵】新開　なつみ

芥川（あくたがわ）

むかし、こんな男の人がいました。男の人には好きな女の人がいて、結婚したいと思っていました。しかし、思うようになりませんでした。ある夜、男の人はその女の人を連れて逃げました。

二人が芥川という川を渡ったとき、女の人は草の上の露を見て、「あれは何ですか？」と男の人に聞きました。

雨が降り、雷の音も聞こえて、周りは真っ暗になってきました。男の人は古い小屋を見つけたので、その中に女の人を入れました。男の人は武器を持って入り口を守りながら、早く朝になってほしいと思いました。

すると、小屋の中に鬼が出ました。女の人は「ああ！」と声を出しましたが、雷の音がしていたので男の人は聞こえませんでした。女の人は鬼に食べられてしまいました。

朝になって明るくなったので、男の人は周りを見ました。しかし、女の人はもういませんでした。男の人は悲しくて悲しくて泣きましたが、女の人は帰ってきませんでした。

白玉か何ぞと人の問ひし時つゆと答へて消えなましものを

（女の人に「あれは何ですか？」と聞かれたとき、「あれは露ですよ」と言って私もその露のように消えてしまえばこんなに悲しい思いをしなかったのに。）

筒井筒（つついづつ）

むかし、子どもたちが井戸の近くで遊んでいました。何年か経って、その子どもたちも大人になりました。男の人も女の人も恥ずかしくて、子どもの頃のように会うことができませんでした。しかし、男の人は女の人と結婚したいと思っていて、女の人もまた男の人と結婚したいと思っていました。だから、親が他の人と結婚させようとしても、誰とも結婚しませんでした。

そして、男の人はこう言いました。

筒井つの井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに

（私は、私たちが遊んでいた井戸よりも大きくなってしまったようです。しばらくあなたに会わない間に。）

女の人は、それに答えて言いました。

くらべ来しふりわけ髪も肩すぎぬ君ならずしてたれかあぐべき

（子どものときにあなたと比べていた私の髪も、肩より長くなりました。あなたの他に誰のために髪を結んで大人の女性になるのでしょうか。）

そして、二人は結婚したのでした。

やさしい日本語で読む日本文学
『飴だま』『伊勢物語』

2022年3月1日発行
発行　宮城学院女子大学　学芸学部　日本文学科
印刷　株式会社 フロット

許可なしに転載･複製することを禁じます。